【文芸時評】より

いつも「文学」を考えている

横尾和博

「季刊 遠近」69号は難波田節子「驟雨」は中学三年の母を亡くした女の子が主人公で、父や再婚した義母との葛藤を描く。思春期の微妙な心理がよく描けて秀逸。小松原蘭「西大門」の主人公も女性で、父親の赴任先であった韓国のソウルに住んでいた中学生時代のことを想起する話。民族間や女性の差別の社会問題を提起し、一石を投じる。思春期の中学生の心理もうまい。

河村陽子『林』は父母や兄など家族の物語を静かな筆致で描く短編集。地道な執筆活動が同書に集約された。